

YAMAHA

2サイクルスポーツ

PURE SPORTS

TZR125



ついに、125もTZRの運動性能を手に入れた。

2ストローク・ピュアスポーツに求められるポテンシャルのすべてを手にしよう。

そう夢見た時、ヤマハの新しい2ストローク125ccマシンは、TZRへと向かう道を走りはじめた。

それは、いまだかつてこのクラスのマシンが目指したことのない、未知なる可能性の追求。

そして夢の実現、TZR125。クランク室リードバルブ、Y.P.V.S.、デルタボックスフレーム、高グリップタイヤ…。

ただ誇るために質を尽くすのではなく、胸おどる高度なポテンシャルを手にするために、必要なハイテクノロジーを開発していく。

そこに息づくのは、きわめて高度な素材と感性、そして、目指す運動性能の獲得に注がれる理性と魂。

そのクールな情熱が、125に、ついにTZRのポテンシャルを与えてしまったのだ。

このマシンの本質はそこにある。TZR125。



POWER UNIT

クランク室リードバルブ採用、Y.P.V.S.搭載、新開発2ストロークエンジン、従来のクラスアベレージをいとも鮮やかに打ち破った。ハイポテンシャル&クイックレスポンス。それは、栄光のエンブレム“TZR”にこそふさわしい。

クイックレスポンスが早い、洗練の高回転域パワー。クランク室リードバルブ採用、水冷2ストローク・シングル

TZR125のパワーユニットは、最高出力22ps/10,000r.p.m.、最大トルク1.7kg-m/8,500r.p.m.を発揮する新開発2ストローク・シングル。それは、市販レーサーTZで培い、RZで熟成を進め、TZR250でさらに飛躍的な進化を遂げた、ピュアスポーツのためのヤマハ・2ストロークテクノロジーを、あますところなく注ぎこんだまったく新しい2ストローク125ccエンジンだ。そして、スペックには現れないものの、TZR125に乗るすべてのライダーが肌でダイレクトに感じるのが、鮮やかなクイックレスポンス感覚。新採用クランク室リードバルブならではのポテンシャルだ。



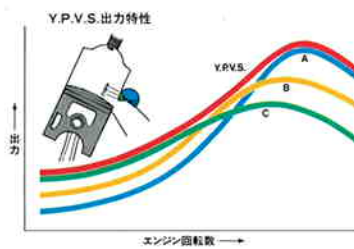
この写真は、プロフェッショナルライダーのサーキット走行を撮影したものです。一般公道では無理な走行ですが、安全が第一です。



これは、吸気ポートをクランク室側に設け、そのポートにリードバルブを配したものの。ピストン位置に関係なく、クランク室が負圧になると同時に吸入工程がはじまるため、より多量の混合気がよりすばやくクランク室内に送りこまれ、きわめて高い吸気効率が実現できるのだ。しかも、追随性にすぐれた樹脂製リードバルブを採用し、圧力変動にすばやく確実に呼応するバルブ閉閉性能を獲得。4ℓの大容量を持つエアクリナー→キャブレター→吸気ポートのストレートな吸気レイアウトとともに、きわめて高い吸気・充填効率とクイックレスポンスをもたらしている。TZR125を操る醍醐味。そこには、クランク室リードバルブをはじめとするさまざまなテクノロジーが生んだ、高回転域ポテンシャルが息づいているのだ。**低・中速域のパワー&レスポンスもさらに豊かに鋭く。独創のY.P.V.S.(ヤマハパワーバルブシステム)搭載**高回転域のポテンシャルとともに、TZR125は、低・中速域のパワー&レスポンスもさらに磨きかけた。この、いわば全域高性能を実現しているのがY.P.V.S.。すでに高い評価が定着しているヤマハ独創の排気ポート可変バルブシステムだ。その仕組みは、エンジン回転数信号を、マイコン内蔵のコントロールユニットが検知し

て、排気ポートに設けたつづみ型のパワーバルブをサーボモーターでワイヤ駆動するというもの。つまり、つねに適切な排気タイミングを維持することによって、2ストロ

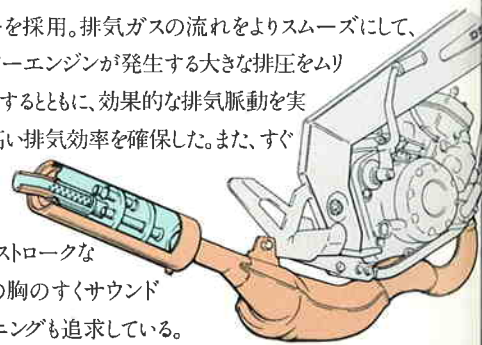
クならではのクイックレスポンスを全域にわたって豊かなパワーとともに発揮させるのが、Y.P.V.S.の特長だ。同時に、55km/ℓ(50km/h定地走行テスト・運輸省届出値)というすぐれた低燃費性能の実現にも、このY.P.V.S.が大きく貢献している。しかも、始動時にパワーバルブを全開にして始動性を高めるとともに、イグニッションをONにするたびにカーボンを除去する、スターティング&セルフクリーニング機構も備えている。



排気効率向上によるパワーアップをも追求。

多段膨張タイプ・チャンバー型マフラー

TZR125は、排気ポートから伸びるエキゾーストパイプ部の曲がりかたゆるやかな多段膨張タイプ・チャンバー型マフラーを採用。排気ガスの流れをよりスムーズにして、ハイパワーエンジンが発生する大きな排圧をムリなく解放するとともに、効果的な排気脈動を実現する高い排気効率を確保した。また、すぐれた静粛性とともに、2ストロークならではの胸のすくサウンドチューニングも追求している。



DELTABOX FRAME

ヤマハ・ピュアスポーツのシャシーテクノロジー・シンボル、
高剛性デルタボックスフレーム。
その圧倒的なポテンシャルと鮮やかな存在感は、
TZRを操るライダーの、大いなる喜びと誇りのために。

コントローラビリティのあくなき追求から 生まれた高剛性デルタボックスフレーム

マシンがライダーの意志に忠実に反応する能力を身につけるためには、なによりもまず、フレームが高い剛性を獲得しなければならない。そこでTZR125では、ワークスレーサーYZRのコンセプトを継承し、ピュアスポーツTZR250で築いた実績を基本として、高剛性デルタボックスフレームを採用した。これは、ステアリングヘッドとリヤスイングアームのピボット部を高張力鋼板製のボックスフレームで直線的に結び、なおかつ、フレームの側面形状をデルタ形とすることによって、きわめて高い剛性を確保するというものだ。事実、このデルタボックスフレームの採用によって、TZR125は、高張力鋼管製フレームに比べ、ネジレ剛性で約70%近くも剛性アップ(RZ125比)を果たしている。しかも、すぐれた操安性を得るための適切なフレーム幅を持ちながら、コンパクトなエンジンやマフラー系の合理的なレイアウトなどと相まって、51°という大きなバンク角を確保。



この写真は、プロフェッショナルライダーのサーキット走行を撮影したものです。一般公道では無理な走行をせず、安全な運転をしましょう。

フレーム自体がもたらす高次元のコントローラビリティとともに、TZR乗りが求める、よりダイナミックなライディング

にも余裕をもって

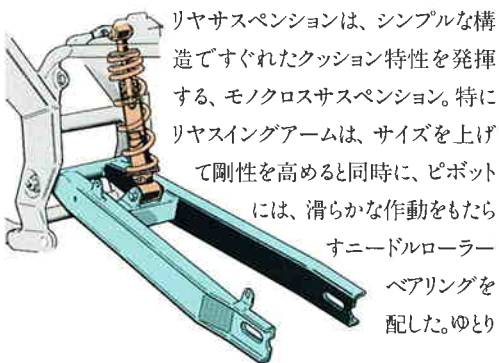
応えるハイポテンシャルを備えている。

しなやかな乗り心地と安定したコーナリング性能

を両立。高剛性フロントサスペンション

ライダーと路面とのダイレクトで確実なコミュニケーションを支えるフロントサスペンションには、φ33の大径インナーチューブを持つフロントフォークを採用。その高い剛性によって、タイトなコーナリングの立ち上がり時にも、前輪の適切なストロークを維持して確かな操縦安定性をもたらすと同時に、140mmというゆりのホイールトラベルとスムーズな作動性によって、快い乗り心地も実現している。

ニードルローラーベアリング採用。すぐれた路面追従性を発揮するモノクロスサスペンション



リヤサスペンションは、シンプルな構造ですぐれたクッション特性を発揮する、モノクロスサスペンション。特にリヤスイングアームは、サイズを上げて剛性を高めると同時に、ピボットには、滑らかな作動をもたらすニードルローラーベアリングを配した。ゆとり

ある100mm

のホイールトラベル

とともに、走行・路面状況の変化に即応する、すぐれた路面追従性を実現している。また、クッションユニットは、長時間走行にも安定した減衰性能を維持する高圧窒素ガス封入式ド・カルボンタイプ。しかも、バネの初期荷重が6段階にわたって選べるイニシャル調整も装備している。

デルタボックスフレームとのウェルバランスを追求。
すぐれたグリップ力を発揮するニューパターンワイドタイヤ
超高剛性デルタボックスフレームの採用に呼応して、



TZR125は、このクラスとしてはワイドサイズのタイヤを装着した(フロント90/90-16、リヤ100/90-18)。その特長は、すぐそれとわかるほどに高い路面グリップ力。シュアなハンドリングを基本にし、

このクラスとしてはワイドサイズを着した(フロント90/90-16、リヤ100/90-18)。その特長は、すぐそれとわかるほどに高い路面グリップ力。シュアなハンドリングを基本にし、超高剛性デルタボックスフレームをしながら、この高グリップタイヤや長いルベース設定によって、操縦性と安定性を高次元でバランス。洗練されたコントローラビリティを実現している。そして軽量キャストホイール。TZR125の足もとをシャープに引き締めるフィーチャーだ。

TZRだからこそそのレーシー・エクイブメンツ

エアプレーンタイプタンクキャップ採用12ℓフェルタンク、12V45/45W角型ハロゲンヘッドランプ、アルミ製フットレスト、シンプルなデザインで情報確認のしやすいメーターパネル、そしてゆりの容量を持つラジエター+適切な冷却効果を維持するサーモスタット+補水の容易なりザーブタンクを備えた高効率水冷システムなど、全身に、TZRの名にふさわしいレーシーなエクイブメンツを備えている。



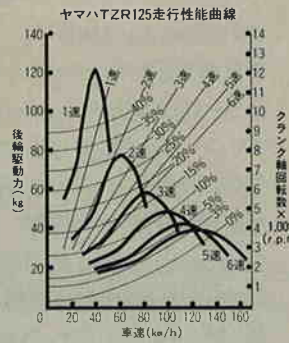
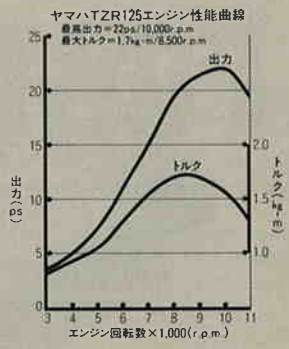
TZRセンセーション。

タイトコーナーの連続するワインディングロード。
マシンが、自分のイメージ通りのラインを描いて駆け抜ける。
大胆にしてデリケートなスロットルワーク、バンクング、そしてブレーキング。
ライダーの気持ちとマシンのハイポテンシャルがひとつになった時、ライディングは、かつてない新しい領域へと向かう。
ビューな人車一体感と、高性能モーターサイクルならではの深い存在感を求めるライダーに、TZRセンセーション。



TZR125仕様諸元表

機種コード	2RM
全長/全幅/全高	2,020mm/695mm/1,005mm
軸間距離	1,350mm
シート高/最低地上高	760mm/135mm
乾燥重量	104kg
燃費・定地走行テスト値	55.0km/ℓ (50km/h)
最小回転半径	2.6m
制動停止距離	8.0m (35km/h)
エンジン種類	2サイクル・クランク室リードバルブ
気筒数配列/総排気量	単気筒/124cc
内径×行程	56.4mm×50.0mm
圧縮比	5.9:1
最高出力	22ps/10,000rpm
最大トルク	1.7kg-m/8,500rpm
始動方式	キック式
点火方式	C.D.I.
燃料タンク容量	12ℓ
オイルタンク容量	1.1ℓ
潤滑方式	分離潤滑式
バッテリー容量/型式	12V5Ah(10hr)/12N5-3B
1次減速機構/減速比	ギヤ/3.227(71/22)
2次減速機構/減速比	チェーン/2.750(44/16)
クラッチ形式	湿式多板
変速機形式	リターン式6段
変速比	2.833/1.812/1.368/ 1.142/1.000/0.916
フレーム形式	ダブルクレードル
キャスト/トレール	26°/10°/91mm
タイヤサイズ・前/後	90/90-16 48P 100/90-18 56P
制動装置・前	油圧式ディスクブレーキ
制動装置・後	機械式ドラムブレーキ



●燃費は定められた試験条件のもとでの値です。従って走行時の気象・道路・車高・整備などの諸条件によって異なります。
●本仕様は予告なく変更することがあります。●仕様変更などにより、写真や内容が一部実車と異なる場合があります。
●ボディカラーは印刷のため、実物と異なって見える場合があります。

この写真は、プロフェッショナルライダーのサーキット走行を撮影したものです。一般公道では無理な走行をせず、安全な運転をしましょう。

TZR125

- 標準現金価格¥310,000 (北海道、沖縄および一部離島を除く)
- ホワイト
- ファラウェーブブルー



手続きかんたん
新しいバイクの買い方です。頭金なし、簡単な手続きでお好みのバイクが、あなたのものに。お支払いは、3回から最長36回までの分割払い(月々のお支払いは、3,000円から)。あるいはボーナス一括払い、ボーナス2回払いなど。ご希望にあわせて幾通りものコースから自由に選べる便利さです。<ヤマハらくらくクレジット>詳しくは近くのヤマハ販売店でおたずねください。



クローズドコースでの「マン・マシン・コミュニケーション」の極致が、一般道路での安全で快適な走行を生み出します。お問合せ、お申込みは、このマークのヤマハスポーツ店へ。

ヤマハライディングスクール(YRS)サーキットランに参加しませんか。



●Y.E.S.S.(イエス)とは、YAMAHA EARTHLY SPORTS STAFFの略。モーターサイクルがプレゼントしてくれる限りなく大きな遊びの世界を、もっと積極的に楽しもうと生まれた新しいクラブです。●特典もいろいろ。入会のお申込み、お問合せは、Y.E.S.S.のステッカーのあるY.E.S.S.加盟店へどうぞ。

バイクライフを大きく広げるY.E.S.S.に、参加しませんか。

HAVE A NICE RIDE!

ナイスライディングをよろしく。

■ヘルメットを正しくかぶりましょう。■点検・整備を忘れずに。■安全のため、改造はやめましょう。■騒音防止のため unnecessary ならぶかしはつつしみましょう。

安全速度で走りましょう。無理な追い越しはやめましょう。カーブではスピードをひかめめに、よく見る、よく見られることに努めましょう。早期・夕暮れは早めにヘッドライトの点灯を、競技用に改造した車両での公道走行はできません。YRSで正しいライディングテクニックをマスターしましょう。

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
〒438 静岡県磐田市新貝2500
8703-50D/☎011067